

患者向け説明書:子宮頸がんワクチン(HPV ワクチン) この説明書は、子宮頸がんワクチンを接種する方に必要な情報をまとめたものです。接種前に必ずご確認ください。

子宮頸がんとは

- **原因:**子宮頸がんの主な原因はヒトパピローマウイルス(HPV)の持続感染です。
- **感染経路:**主に性的接触によって感染します。
- **リスク:**HPVは多くの人が一生涯に一度は感染しますが、持続感染すると子宮頸がんや尖圭コンジローマなどを引き起こすことがあります。

ワクチンの特徴

- **種類:**HPV ワクチンには 2 価、4 価、9 価ワクチンがあります。現在は広く 9 価ワクチン(シルガード 9[®])が使用されています。
- **予防効果:**子宮頸がんの原因となる HPV 感染の約 90%を予防できるとされています。
- **対象年齢:**小学校 6 年生～高校 1 年生相当の女子は定期接種の対象。男子への接種も推奨されています。

接種スケジュール(シルガード 9[®])

- **15 歳未満で開始した場合:**2 回接種(初回と 6 か月後)。
- **15 歳以上で開始した場合:**3 回接種(0 か月、2 か月、6 か月のスケジュール)。

副反応について

- **よくある副反応:**注射部位の痛み、腫れ、赤み。
- **全身反応:**発熱、頭痛、倦怠感。
- **まれな副反応:**失神、強いアレルギー反応(アナフィラキシー)。

接種が推奨される方

- 定期接種対象年齢の女子(小 6～高 1 相当)。
- HPV 感染予防を希望する成人女性や男性。
- 将来の子宮頸がんリスクを減らしたい方。

接種前の注意

- 発熱や体調不良がある場合は接種を延期することがあります。
- 過去にワクチンで強い副反応があった場合は必ず医師に伝えてください。
- 妊娠中の方は接種できません。

接種後の注意

- 接種後 30 分程度は医療機関で体調を観察してください(失神予防のため)。
- 当日は激しい運動を控えてください。
- 強い症状が続く場合は速やかに医師へ相談してください。

まとめ

子宮頸がんは**予防できる数少ないがんの一つ**です。HPV ワクチン接種により将来の子宮頸がんリスクを大幅に減らすことができます。定期接種の対象年齢での接種が特に推奨されます。

この説明書は一般的な情報です。詳細は必ず医師・医療機関にご相談ください。

副反応確認のため、接種後 20 分間体調確認をさせていただきます。

帰宅後、体調の変化などがございましたら下記にお問い合わせ下さい。

秋田赤十字病院 電話 018-829-5000(代表)

平日(8:30-16:30)は予防接種センターでの対応、それ以外の時間帯は救急外来での対応となります。